

令和3年度第2回新潟市認知症対策地域連携推進会議 会議録

開催日時：令和3年12月21日（火）午後6時30分～午後8時00分

会場：新潟市役所本館西1階 109会議室（ZOOMミーティングによるオンライン）

出席委員：阿部委員 荒井委員、荒木委員 池内委員 近委員 佐野委員 等々力委員
中臣委員 成瀬委員

欠席委員：久保委員 田中委員

事務局出席者：地域包括ケア推進課 高橋課長 金子課長補佐 古田係長 小柳係長
長谷川主査、平岩主査
安達認知症地域支援推進員
小川認知症地域支援推進員

関係課出席者：こころの健康センター 精神保健福祉室 中川主査
地域医療推進課 関根係長
福祉総務課 戸澤主査
障がい福祉課 上村課長補佐
高齢者支援課 岡村課長補佐
介護保険課 川上課長補佐
保険年金課 健康支援推進室 坂井室長
東区健康福祉課 高齢介護担当 佐藤係長 木村主査
中央区健康福祉課 高齢介護担当 柏倉係長 來田主査
西区健康福祉課 高齢介護係 三浦主査
西蒲区健康福祉課 高齢介護担当 阿邊主査

傍聴者：1名

（司会）

それでは、定刻となりましたので令和3年度第2回新潟市認知症対策地域連携推進会議をはじめさせていただきます。

会議冒頭の進行役を務めさせていただきます地域包括ケア推進課の金子です。よろしくお願ひします。

本日の会議につきましても、前回と同様にオンラインで開催させていただいております。委員の皆様におかれましては、会議開催中、ご発言いただく時以外はマイクをミュートにしてい

きますよう、お願いします。また、ご発言の際には、お手数ですが画面下の右端にあります反応アイコンをクリックし、手を挙げるというアイコンをクリックして発言の意志をお示しください。それを見てお声がけをしますので、指名されましたらお手元でマイクのミュートを解除した後、ご発言いただきますようお願いいたします。ご発言が終わりましたら、再びマイクをミュートにさせていただくようお願いいたします。

なお、本日は久保委員と田中委員からご都合により欠席されるとのご連絡をいただいております。本日の会議につきましては、会議録作成のため、録音させていただきますので、よろしくお願いたします。

続きまして、議事に入る前に本日使用します会議資料の確認をお願いいたします。

事前配布資料として委員の皆様へ郵送しましたものが、この会議の次第、委員名簿そして資料の1として新潟市認知症対策地域連携推進会議開催要綱、資料の2として認知症地域支援コーディネーター配置事業、計4点の資料をお配りしてあります。お手元にお揃いになっているかご確認をください。

それでは次第に沿って進行させていただきます。次第の1、開会にあたり、地域包括ケア推進課 課長の高橋よりご挨拶させていただきます。

(地域包括ケア推進課長)

皆さんこんばんは。地域包括ケア推進課の高橋と申します。

委員の皆様からは日頃より本市の認知症施策にご協力をいただき、また年末のお忙しい中、夜間の会議にも関わらずご参加をいただきまして誠にありがとうございます。

本日の会議につきましては、委員改選後初めての会議となります。前回任期に引き続き、皆様方から委員をお引き受けいただきました。今任期におかれましても引き続き皆様より活発なご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、この会議につきましては、認知症初期集中支援チーム検討委員会の役割も兼ねてお願いしております。こちらにつきましてもよろしくお願いいたします。

本日は次第にありますように、報告事項のみで議題も少ないんですけど、5月より新規事業としてスタートいたしました認知症地域支援コーディネーター配置事業について、みどり病院の井上さんから事業の進捗状況をご報告いただきます。皆様方からご意見等いただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(司 会)

続きまして、次第の2委員紹介に移らせていただきたいと思います。

本日は委員の改選後初めての会議となりますので、各委員より自己紹介をお願いしたいと思います。資料としてお配りしました委員名簿の順番に阿部委員からお声がけしますのでご挨拶をお

願います。それでは阿部委員よりご挨拶、自己紹介をお願いします。

(阿部委員)

民生委員の代表で参加してます、阿部哲朗と申します。認知症に関しては、皆さんの中から比べれば、素人なんで色々話を聞かせてもらい、また自分の糧としていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(司 会)

阿部委員ありがとうございました。

続きまして荒木委員、自己紹介をお願いいたします。包括赤塚の荒木委員、画面とマイクの状況がよくないでしょうかね。復旧しましたら改めてご挨拶いただきたいと思いますので、続きまして池内委員、自己紹介をお願いいたします。

(池内委員)

皆さん、こんばんは。新潟大学の池内です。前回の委員から引き続き、委員を務めさせていただきます。

今までの推進会議では様々な立場の方から色んなことを教えていただきまして、今回も色々と一緒に学びながら、認知症の方が過ごしやすいような社会を実現することに貢献できればと思っております。よろしくお願いします。

(司 会)

池内委員ありがとうございました。続きまして、近委員、自己紹介をお願いします。

(近委員)

この度、委員を再任ということで務めさせていただきます認知症のキャラバン・メイトとして参加しております鍼灸師をしております近千明と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

(司 会)

近委員ありがとうございました。続きまして佐野委員、自己紹介をお願いします。

(佐野委員)

白根緑が丘病院の院長の佐野と申します。精神科の病院をやっております、併設の認知症疾患医療センターを通じまして、認知症の方と色々接しさせていただいております。今後よろしくお願いいたします。

(司 会)

佐野委員ありがとうございました。続きまして荒井委員、自己紹介をお願いします。

(荒井委員)

警察本部の荒井と言います。よろしくお願いいたします。

私がこの会議に参加させていただくのは今回で2回目になるんですけど、本日も皆様のお話を

聞かせていただいて、また色々と勉強させていただきたいと思います。

特に私の業務で言いますと、認知症の方々の徘徊、行方不明に関するところが主となりますので、認知症の方々の徘徊もあるんですけど、そういったところで色々お話できればと思っております。よろしくお願いいたします。

(司 会)

荒井委員ありがとうございました。続きまして等々力委員、自己紹介をお願いします。

(等々力委員)

引き続き委員を務めさせていただく公益社団法人認知症の人と家族の会新潟県支部の副代表の等々力でございます。

本人とご家族を支援する団体なんですけども、少しでもご本人、ご家族にとってよりよい新潟市になればなと思って、微力ながら私も務めさせればと思っております、よろしくお願いいたします。

(司 会)

等々力委員ありがとうございました。続きまして中臣委員、自己紹介をお願いします。

(中臣委員)

医療法人愛広会グループホームおやま管理者をしております中臣智美と申します。よろしくお願いいたします。

前回に引き続き参加させていただくことになりました。認知症の方に日々寄り添うなかで少しでも貴重な意見が聞けたらなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(司 会)

中臣委員ありがとうございました。続きまして成瀬委員、自己紹介をお願いします。

(成瀬委員)

皆さん、こんばんは。みどり病院の成瀬です。佐野先生と同じく新潟市で認知症疾患医療センターをやっています。今度とも、またよろしくお願いいたします。

(司 会)

成瀬委員、ありがとうございました。

荒木委員ですけども、まだちょっと機器の状態が復旧しないようですので、申し訳ありませんけども、議事をこのまま進めさせていただきます。事務局及び関係課につきましては、名簿に記載のとおりとなっております。委員の任期は3年となっておりますので、2024年、令和6年の8月末まででございます。どうぞ委員の皆様よろしくお願いいたします。

それでは次第の3、座長の選出に移りたいと思います。座長の選出は、資料の1当会議の開催要項をご覧ください。開催要項の第6条に基づき、座長の選出は委員の皆様の互選となっております。

ますので、委員の皆様から自薦他薦をお伺いしたいと思います。

座長の自薦他薦はございませんでしょうか。

(委員)

意見なし。

(司会)

よろしいでしょうか。

それでは委員の皆様からのお声がないようですので、事務局の方からご提案をさせていただきますと思います。皆様よろしいでしょうか。

(委員)

異議なし。

(司会)

ありがとうございます。

それでは座長の選任について事務局からご提案をさせていただきます。

座長につきましては、公平性を保って会議を進めていただくためにも、中立な立場で会議を統括していただける方にご就任いただきたいと考えております。

事務局からは新潟大学脳研究所 教授池内委員をお願いしたいと思います。皆様いかがでしょうか。

(委員)

意見なし。

(司会)

特に異議なしということでよろしいでしょうか。

(委員)

異議なし。

(司会)

異議がないようですので、池内委員に座長をお願いしたいと思います。

それでは座長池内委員より、もう一度挨拶をお願いします。

(池内委員)

皆さま、ありがとうございます。

前回に引き続きまして、座長を務めさせていただきます。ご存知のように認知症の対策推進大綱というものが2019年に出来まして、もう早2年になります。認知症の方、あるいはご家族が安心して暮らせる社会を実現するために、これからが正念場かなというふうに思っております。

本会議の委員の皆様、新潟市の関係各位の皆様のお力を借りまして、新潟市の認知症施策が進

むことを願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(司 会)

池内委員ありがとうございました。

続きまして、座長が欠けた場合の職務代理につきまして、開催要綱第6条第3項に基づき、あらかじめ座長が指名することになっております。池内座長いかがいたしましょうか。

(池内委員)

ありがとうございます。

前回もお願いしておりました成瀬委員に職務代理をお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

(司 会)

成瀬委員いかがでしょうか。

(成瀬委員)

よろしく申し上げます。

(司 会)

それでは万が一、座長が欠けた時は成瀬委員に職務代理をお願いいたします。

ではここから、開催要綱第6条第2項に基づき、池内座長より進行をお願いし、次第の4、議事に入らせていただきます。池内座長、ここからよろしく申し上げます。

(座 長)

ここから、私の方で議事を進めさせていただきます。

議事(1)、認知症地域支援コーディネーター配置事業についての報告について、事務局の方からご説明をお願いいたします。

(事務局：小柳)

地域包括ケア推進課の小柳です。いつもお世話になっております。

こちらの事業について、最初に私の方から簡単ですがご説明をさせていただきます。この事業につきましては、前回8月の第1回目の会議におきまして、受託先でありますみどり病院に認知症地域支援コーディネーターの方を配置し、事業の方がスタートをしたということを皆様にご報告させていただきました。

本日は、5月より事業スタートしてきましたこの事業の進捗状況について報告をさせていただければと思います。事業の報告につきましては、みどり病院の認知症地域支援コーディネーターとして配属となりました井上夏世さんの方からご報告していただきますので、よろしくお願いたしたいと思います。私の方からは以上になります。

(座 長)

ありがとうございました。

では引き続き、井上様ご説明をお願いしてもよろしいでしょうか。

(井上認知症地域支援コーディネーター)

ありがとうございます。

ただいまご紹介いただきました、みどり病院認知症疾患医療センターの井上と申します。よろしくお願いたします。

認知症地域支援コーディネーターに着任して半年余りですが、現在までの経過をご報告させていただきます。スライドに移り、画面共有いたします。

これから、令和3年5月1日から始まった認知症地域支援コーディネーター事業の進捗状況について、ご報告いたします。私はそれまで、介護保険の通所リハビリの相談員をしており、リハビリで元気になった人を地域に帰すといた役割は担ってきましたが、今回分野が少し違いますので何から始めたらいいのか、右も左も分からず、とりあえず土台作りとしてお茶の間や認知症カフェなど中心に地域に出ていくことと、地域包括支援センター7やと情報共有することから始めました。

認知症地域支援コーディネーターとして委託されている主な事業は資料にある5つの内容になります。

5つの項目それぞれについて、進捗状況をお話していきますが、主な業務のうち現在注力している⑤のチームオレンジの立ち上げと、③の地域における認知症サポーターの養成を中心に説明します。お手元の資料と順番を変えてお話しますので、資料は後で見直す時にお使ください。申し訳ございません。

まず、⑤のチームオレンジの立ち上げについて、ご説明させていただきます。

令和3年10月22日、発起人として地域包括支援センターふなえの2名、ふなえ圏域生活支援コーディネーター、井上の4名で立ち上げました。

チームオレンジとしての目標は、「孤立ゼロ・早期発見・早期つながりへ」です。広報はお茶の間、コミ協、企業の挨拶回り、認知症サポーター養成講座の受講者等、地道に行っております。

なんで、しもまちで立ち上げたのかというと高齢化率が新潟市で一番高いからであり、ふなえ圏域は、保護受給対象者やお一人暮らしの方、身寄りがいない方の割合がとても多いことから、暮らしやすいまちづくりを必要としている圏域であると感じています。また、生活支援コーディネーターが常駐する「えがおの家」があったことも大きな理由でした。

現在、チームオレンジのチーム員登録は約60名です。専門職が多いですが、一般の方も少しずつ増えてきております。参加企業は大小合わせて10社ほどです。勇気を出して企業訪問に行ったりもしたのですが、訪問した中でチームオレンジに参加していただいた企業は半分以下です。

次に、活動内容を紹介します。写真は、第1回目の打ち合わせの様子です。集まったメンバーは福祉の専門職、近隣住民の方、自治会、生活企業の方等 24 名でした。現在、主な活動内容は赤字で書いてある認知症カフェ、地域づくりセミナーと称する勉強会、独り歩き、言い換えるとすると徘徊なんですけれども、模擬訓練です。

やりたいことはたくさんありますが、意見を出し合って、当面活動する内容を決めました。毎月第3水曜日はチームオレンジの日として、活動毎に時間を変えて、希望する活動に参加していただいています。

次に活動内容①～③についての取り組みを紹介いたします。

①、認知症カフェです。認知症カフェでは、名前を「オレンジカフェしもまち」と決めて、2月16日オープンに向けて打ち合わせを重ねています。チラシを作るのも、そのチラシを配って広報するのもチーム員です。

前回の打ち合わせでは、どのような流れのカフェにするのかやターゲット層などを話し合いました。多くが近隣の人や認知症に興味のある方が中心になると、お茶の間との区別がつかなくなるので、認知症の方やご家族に来てもらいたいという意見でした。

②、地域づくりセミナーです。チームオレンジのチーム員が今後活動する上で知識を深め、自信を持って活動に取り組めるよう、毎月チームオレンジ内の専門職が講師になって勉強会を行います。来月1月12日が初回となります。

③、独り歩き模擬訓練です。写真は、独り歩き模擬訓練の打ち合わせの写真です。来年度5月頃の開催に向けて、今後参加者へサポーター養成講座を行ったり、声かけの仕方を勉強したり、当日のシナリオ等も作っていきます。

これは、第2回の様子ですが、写真中央のマイクを持たれている方は、コミ協の方でご自身の地区には毎年孤独死される方が出ていると話されていました。また、この中の2名が独り歩きによって家族が命を落とされるという経験をされていました。

今のチームオレンジの課題は3つあります。まず、1つ目です。チームに認知症の方やご家族が参加していないということです。

ふなえ圏域は、お一人暮らしが多く、同居家族がないので、認知症になっても外部から気づかれにくく、独り歩きをしても徘徊と分かりにくいといった特徴があります。チームオレンジは、認知症の方ご本人もチーム員であることが前提ですので、認知症の方の意思決定がなく外枠ばかり進んでいかないよう、早急に解決する課題として情報収集をしています。

もう一つの問題は送迎問題です。歩ける距離に住んでいなければ、認知症カフェができて行くことができません。どの活動でもテーマになるのが「送迎問題」です。もし、タクシー会社がチームオレンジに参加してくださり乗り合いを承諾してくれたら、送迎付き 500 円のワンコイン

カフェができるかもしれません。

3つ目は、参加企業の少なさです。通常業務に差し障るようなことは求めてはおらず、認知症に関する勉強会に参加できたり、相談窓口になれるといったメリットをお伝えしているつもりですが、まだチームオレンジも知名度も低く、信頼を得ることが難しいようです。

挨拶回りに行ってお案内していますが、大体が「検討して返答します」のまま返事がない自然消滅のパターンなんですけれども、お断りの理由の多くは、マンパワー不足で参加できない、個人情報共有はできないという理由でした。なかには、自社で研修を行っているし、認知症の方への対応もしていると言われるところもありました。

そこで、来年2月10日、企業様を集めた協議会を開いてチームオレンジの主旨を説明し、企業の参加を募ろうかと企画しております。

③、地域における認知症サポーターの養成に移ります。今年から中央区キャラバン・メイト連絡会も定期開催になり、新潟市内のサポーター養成講座も常設のところが増えました。そして、ブランクのあるメイトさん、講師役の方ですが、ブランクのあるメイトさんや新人メイトが活躍できるよう、自信のない方のサポートをしています。

私個人では、小学校や民生委員に養成講座をすることができました。今後も若年層のサポーター養成講座は積極的に行っていきたいです。

また、サポーター養成講座を終了した方が、知識を深めるステップアップ講座が現在では新潟市が行う年1回のものしかなく、当院でもステップアップ研修を開催することが決定しました。認知症疾患医療センターの医師や専門職による講義のほか、グループワークや高齢者疑似体験など、知識・経験を深め、今後の活動に自信を持って取り組んでいただきたいといった狙いで、2日間の日程で予定しております。全国では1300万人を超えるサポーターがいますが、一度講座を受けて終わってしまう方がとても多く、しっかり認知症の知識を持ったサポーターの養成、人材育成が今後は必要なのではないのでしょうか。

今ほど、主な業務の⑤番と③番についてお話させていただきましたので、残っている①、②、④番についてお話させていただきます。

①、医療・介護支援ネットワークの形成になります。中央区の5つの包括、5圏域の生活支援コーディネーターとの定期的な会議を実施しています。毎月、もしくはそれに近い形での顔の見える関係づくりを行い、情報交換・情報共有を行っています。初期集中支援チーム員会議参加や認知症センターカンファレンス参加は、医療・介護以外の支援が必要な方の情報を早期にキャッチできるようにしています。

②、地域資源の開発支援です。現在、包括支援センター鳥屋野・上山とその圏域の生活支援コーディネーターとでケアカフェを企画しています。インターネットで検索するケアカフェは、専

門職種が集まってざっくばらんな情報交換を開く会と載っているのですが、私たちが意図しているものは、介護に疲れたご家族様が気軽に集え、日々の苦労をねぎらい合い英気を養う場です。敷居をぐっと下げ、気軽に集える場所となるよう検討しています。

最後、④番の相談業務になります。今年の7月から12月で、私のところには相談件数が合計13件ありました。そのうち、その場で地域資源を紹介し解決したものは2件、専門機関へ繋ぎ終了としたものが2件、経過観察中が9件となっております。

相談者の内訳は、お茶の間の参加者、民生委員、施設職員、あとは区役所、郵便局、家族会、認知症疾患医療センター等です。お茶の間に参加されている方や民生委員さんが多かったです。

年度初めは、地域資源調査の意味合いで訪問していたお茶の間が、現在では顔つなぎの訪問になっています。何回も訪れることで信頼関係ができ、ご近所情報なども話して下さるようになってきました。相談内容には地域の情報が詰まっていますし、ニーズを把握するにも必要なもので今後どんどん受けていきたいと思います。

考察です。認知症の進行によって、相談内容が変わってくる場合があります。そして認知症のご本人が、介護保険サービスや地域との繋がりを受け入れるには時間がかかる印象です。また対象者が個人ではなく、複数または地域全体となると、なかなかいろんな方の思いが交差して話が進まない印象です。

最後に、地道な広報の一つとしてチームオレンジのホームページをチーム員が立ち上げてくれました。一人でも多くの人に見ていただき、チーム員が増えることを願っています。

ホームページには、常にフレッシュな情報を載せたいので、元気に活動してこまめに更新していきます。ちなみに、これはまだ非公表になっているので、検索しても大分探さないとヒットはしません。もしくは「オレンジカフェしもまち」で検索すると上位に出てくるようですので、よかったですら検索してみてください。私の話は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

(座長)

井上様、ありがとうございました。

短期間の間にかなり幅広く活動いただいて、チームオレンジを始めとした実績も上げておられて素晴らしい活動内容だと思いました。

いかがでしょうか。何かご質問、ご意見ありましたら、手を挙げるボタンでお示しいただければと思いますが、いかがでしょうか。

もう既にチームオレンジも作られて、それからホームページも作成されて、ホームページ、やはり情報発信ってすごく大事だなと思いますし、ブログも作っておられて、先ほどチラッと見ましたけども、セミナーの話とか認知症カフェの話とか情報発信されていて、とても大事なことだなと思いましたけど、このホームページの管理はどなたがどんな形でやっておられるんですか。

(井上認知症地域支援コーディネーター)

ホームページは、ふなえ園域の生活支援コーディネーターの方が作ってくださりまして、今後、発起人4人が誰でも操作できるように中身を調整すると言っておりました。

(座長)

ありがとうございます。手作り感があって、とてもいいと思いました。他、いかがでしょうか。近委員、どうぞ。

(近委員)

ありがとうございます。チームオレンジしもまちの課題の2つ目に、送迎問題っていうのがあったんですが、過去、タクシー会社の認知症のサポーター養成講座を3日間にわたって行った経験がありますが、受けたところの会社などにご相談されるのが、いいのかなとちょっと思いましたので、手を挙げさせてもらいました。参考になればと思います。

あと意外と、もしかしたら、タクシー会社というよりは個人タクシーさん、意外ともしかしたら狙い目なのかなとも、ちょっと思いました。以上です。

(座長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。等々力委員、どうぞ。

(等々力委員)

井上さんが、私どもの家族の会にも、「つどい」にもおいでいただき、ありがとうございます。企業を回ったりとか、色んな苦勞をされているというので、頭がさがります。このことが一番コーディネーターの役割が、非常に、私、大変だなんて思っていたので、でもここまで本当に繰り返しになりますが、ご苦勞様です。

そして、認知症カフェのところなんですけども、これは地域の茶の間の関係者なんかから、話が出たのかもしれませんが、先ほど一般の方とかも対象にするのではなく、認知症の人とかご家族を主に対象にするということで。区分けというか区別がなくなるんじゃないかと、もしかしたら地域の茶の間の方からそのような話が出たかもしれないんですけど。ただ、認知症に特化しつつも、やはり私たちの会がそうなんですけど、ご家族、ご本人だけではなく、もちろん専門職の方いっぱい来られてますけど、一般の方で認知症に関心のある方も対象にしてます。それが、やはり認知症の啓発ですとか、逆に認知症を支援する方できる社会に繋がると思うんですよね。ただ、守秘義務などを守っていただいて。

うちの「つどい」なんかは、どうしてもご家族が参加するイメージありますが、関心のある方もということでも広げています。先日も一般の方と異なるかもしれないけど、軽度認知障害、MCIの方も参加されていたりですね。そういう一般の方にも広げてしないと、やはり参加者が狭まってくる可能性も懸念されますので、私のちょっと個人的な意見なんですけども。

あと先ほど、若い方への、小学生でしょうか、サポーター養成講座の話が出ました。今月、私も北区の南浜中学校の1年生にサポーター養成講座を行ってきたんですけども、今やはり核家族化でなかなか認知症のお年寄りと同居する方が少なくなって、昔はお年寄りの方から、昔の文化とかいろんな生活を学んだりできたんですけど、認知症の方とも接することが少ない。

学生さんなんかは、まっさらな心で広い心で、非常によく学んでくれて、あとにはものすごく認知症の方をいたわるような発言が出て、やはりこれは、包括さんなんか、小学校・中学校で行っているって非常に貴重だなと。南浜中学校には、成瀬先生も以前に来ていただいたと言っていましたけど、非常に成瀬先生の話聞いてよかったです。非常に私は行って欲しいと思います。

あとすみません、長くなって申し訳ないんですが、認知症って言うのは、医療の方と関わり方と環境づくり、両方バランスが取れて、認知症の人と家族の人にいい環境とか社会ができると思うんですけど。私たちが出来るのが、関わり方とか環境づくりなので、とりわけサポーターになります。私なんかは全員がサポーターで、少しでもできる範囲でいい環境づくりができればいいと思っていますので、ほんとに社会全体がサポーターになって欲しいと思っていますので、まず最初非常に大変だと思うんですが、こういう形でどんどん、また進めていっていただくと非常に有意義だと思って。今日、思ったよりも話が進んでいたので、非常に心強く感じました。私達、家族とご本人のケアする団体にとって、ありがとうございました。

(座長)

井上様、何かございますか。

(井上認知症地域支援コーディネーター)

1点目に関してなんですけれども、認知症カフェの対象の層の話になりますが、認知症カフェの開催場所が「えがおの家」という康和園の別邸様なのですが、そこの一軒家では、今実際に火曜日と金曜日、お茶の間が開かれているんですね。同じ建物で違う曜日なんですけれども、認知症カフェを開くには、どうしても差別化をしないと、区別をしっかりとつけなければいけないのではないかという意見が先日の集まりでは多かったです。ただし、おっしゃるように、あまり間口を狭めてしまうと「じゃあ誰がいいの？」というような、そんなことにもなりかねないので、その辺がとても難しいなと私自身、考えております。他のチーム員の皆様とも、その辺はよく検討を重ねていきたいと思っています。

また、新潟小学校様への認サポを行わせていただいた後に、民生委員の方から「ねえねえ、井上さん、この前クロスパルでオレンジリングを着けた男の子が本を返しに来ていたんだけど、すごく感動したわ」というお話をいただきまして、よかったです。その子が私のサポーター養成講座を受けている子かどうかは全然分かりませんが、そういった小さな感動が少しずつ広まっていったら、すごく皆さんに勇気と感動を与えるじゃないですけど、いいことなんじゃない

かなと思って、今後もぜひやっていきたいなと思っております。以上です。

(座 長)

ありがとうございます。他に何かご質問、コメントありませんでしょうか。では、井上様ありがとうございました。

次が議事の(2)、認知症安心ガイドブックの改訂について、事務局からご説明をお願いします。

(司 会)

座長、申し訳ありません。

荒木委員の機器の復旧ができたかと思っておりますので、ちょっと先に荒木委員のご紹介を挟まさせていただきますと思います。

荒木委員、自己紹介をお願いします。

(荒木委員)

大変申し訳ありませんでした。15分ほど遅れてしまって申し訳ありませんでしたけれども、包括支援センター赤塚の荒木と申します。

この度、改めて皆様と一緒に会議に参加させていただくこととなりまして、何というか、私だけでなく、包括支援センターの方々、たくさんご意見あると思うんですけども、日頃の中から少しでもお伝えできればと思っておりますので、また是非お仲間に入れていただけて、勉強もさせていただきたいと思っております。今後とも、よろしくをお願いします。

(司 会)

荒木委員、ありがとうございました。

それでは議事の2、認知症安心ガイドブックの改訂について説明をさせていただきたいと思えます。

(事務局：小柳)

こちらにつきましても、私の方から説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

ガイドブックの改訂につきましては、介護保険事業計画の策定期間に合わせて、内容を見直して改訂を行ってまいりました。前回の8月の第1回の会議において、今年度ガイドブックの改訂を予定していることをお伝えしておりましたが、内容におきましても前回の計画と比較して大きな見直しがないことから、今回改めて改訂は行わず現行のガイドブックを引き続き配布していくことといたしました。

しかしながら、記載してあります相談先の所在地でありますとか連絡先といった変更でありますとか、修正が必要な記載も多く見受けられておりますので、現在の最新の情報に修正したものを配布したいと思っております。説明の方は以上になります。

(座 長)

はい、ありがとうございます。認知症安心ガイドブックの改訂についてでございましたけど、何かご質問、ご意見あればどうぞよろしくをお願いします。

今のガイドブックはどれくらい配布されている、何部くらい、既に配布済みなんですか。

(事務局：小柳)

今の版を 43,000 部ほど作成しております、残部が各区役所等で 1 万ほどありますので、3 万ちょっとを配布したところになっております。

(座 長)

はい、ありがとうございます。

新潟市のホームページからもダウンロードできますよね。ダウンロードの数は把握されていますか。

(事務局：小柳)

すみません、そこまではちょっと把握はしておりません。

(座 長)

どれくらいダウンロードされているかみたいところは、指標になるというか。こういうのがあるというのが分かるかと皆さんご利用いただけるかなというところもあるかなと思いました。

他に何かありませんでしょうか。大丈夫でしょうか。ありがとうございます。議事 2 をこれで終わりにさせていただきたいと思います。

あといかがでしょうか。議事以外のことについて、何か意見交換というところで、今回新しく改選という形で皆さん、更新となりましたけども、これから認知症の施策に向かって、課題も含めて。

阿部委員、何かございますでしょうか。

(阿部委員)

私、民生委員をやっているながら民生委員の仕事の中で毎月 1 回独居老人の見守りがあるんですけども、それに伴って活動していると独居老人だけじゃなくて高齢者の夫婦世帯だとか独り者がものすごく今、増えているということを感じざるを得ないですね。

それで、大分前の新聞に載っていたんですけども、2020 年の 1 年間で警察によると、認知症やその疑いで行方不明となり、警察に届け出があったのが 17565 人あったというんですね。その中で 527 人が行方不明中に事故に遭うなどして死亡したという報告がなされています。それをやっぱり見た時に、我々周りの人がいかに、何て言うのか、独居老人にしろ、認知症の人にしろ、そういう人に思いを寄せ、声かけだとかそういうものやっていかなければ、これからはどんどんどんどんこういう死亡に至るような事故というのは減っていかないのかなと思って懸念してい

る次第なんですね。

このコーディネーター配置事業のなかで、安心して暮らせる地域づくりっていうのがありますけども、これのやっぱり原点というのは、自治会との連携というのが基になってくるんじゃないのかな。それで、自治会の方にも自治会の中の組だとかそういうお互いさまの、要するに、地域の中で支え合えるような仕組みづくりを構築していかなければならないのかなってものをすごく感じた次第であります。

私はあまり認知症に関しての知識は乏しいですけども、うちの母が90歳で亡くなりましたけども認知症で亡くなりました。認知症の介護を5年ほど続けましたけども、やっぱり本人は言っていることは分かるんですね。ところが自分の声になって出てこないんですよ。それを母の介護をしながら、つくづく思った次第です。拙い話ですが以上です。

(座長)

ありがとうございます。

荒木委員いかがでしょうか。

(荒木委員)

そうですね、地域の方から色々なご相談を私達もいただくんですけども、やはり今おっしゃっていただきました民生委員さん方の訪問活動がものすごく私達もお世話になっておりました。

心配な方がいらっしゃると、なるべく民生委員さんと同行で伺わせていただくようにしております。私達だけで急に伺おうとしても、なかなかこう警戒されてしまうものですから、民生委員さんとなるべく一緒に行かせていただいて、顔を覚えていただけるようになったところで私達の方で改めて訪問するような形になるんですけども。

地域の皆さんが「ちょっとあの、普段と、今までと変わってきたよね」ですとか、それから、それこそ「ゴミの出し方とかちょっと違うのを出してくるようになったよね」ですとか、そういう細かいところ見て下さっていて、大変ありがたいことだと思っていますので、ぜひこれからも少しの気づきを包括に教えていただきたいと思いますし、また、先ほどの地域の支援コーディネーターさんの認知症カフェの立ち上げの話の中でも、多分チームオレンジの立ち上げ支援というところでお知らせいただきましたが、この辺りは、自治会の回覧板で広報されているのかなと思って聞かせていただいていたいました。

やはり自治会さん、民生委員さんを通して、私達の個別の相談もそうなんですけど、投げかけはやはり地域に向けての投げかけをしていかなければならないところと思っていますので、そういう回覧板一つ取ってみましても、ぜひ今後ともご協力をお願いしたいところですので、お付き合いを本当にこれからもお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(座長)

ありがとうございます。近委員、何かございますでしょうか。

(近委員)

先日、チームオレンジしもまちの勉強会に参加してきました、中央区のキャラバン・メイトの連絡網で知って参加したのですが、地域の方の打ち合わせがあつて、たくさんの方がいらつしゃつて皆さん真剣に考えていらつしゃるんだなつてことを感じました。

私自身は西区なんですけども、全市に将来、展開していくということを見据えて、ぜひ勉強させていただき、しもまちの応援もしながら、また、こちらの会の方でも勉強しながら皆さんから教えていただきたいと思っています。以上です。

(座長)

ありがとうございます。佐野委員、いかがでしょうか。

(佐野委員)

先ほど、お話に出たんですけど徘徊して亡くなるとか事故に巻き込まれるというケースは、私もそのデータは前も見ておりました、確か新潟県でも年によって違いますけれど、新潟県でも年間で20人前後の人が行方不明なつて亡くなつていふと。全国的には、600人～700人の人が徘徊後に亡くなつていふというデータがあります。また、以前に警察の方にもお話聞いたことがあるんですけども、新潟県に警察署は大体30カ所ありまして、その中で例えば認知症で亡くなつて発見された方が警察署に運ばれた場合、霊安室がある警察署もあれば、ないところもあつて、亡くなつた方が警察署によっては遺体を安置する場所が十分確保されていないところもあつて、そこで、ご家族と対面するといふケースもあつて、やっぱり霊安室といふのがこれからも作られることが大事だとおっしゃっていました。

ご本人が亡くなつて、家族は非常に絶望と悲しみが深いと思ひますので、そういった悲しい死といふのが少しでも防げるといふのが大事だと思ひますので、コーディネーターの方のいろいろなお話もありましたし、一般の市民の方への啓蒙が進んでほしいと思ひています。ちょっと徘徊で出かけて道に迷つていふような人、一般の人が見ても分かる感じあると思ひますね。季節にそぐわない恰好であつたり、ちょっと着衣が汚れていたりとか、普段見ないようなところで見かけたりとか、そういうような方への声かけとか発見とか、そういうのも色んな一般の方も含めて、今後大事かなといふ風を感じておひります。以上です。

(座長)

ありがとうございます。荒井委員いかがでしょうか。

(荒井委員)

佐野先生のおっしゃる通りですね、ご遺体の安置場所が十分確保されていないところは確かにございます。そういったところで、私どもも心苦しい思ひをすることも多々ございます。

先ほど、阿部民生委員さんですとか、コーディネーターさんの色々お話があって、お互いさまの精神ですとか、コーディネートが重要と感じましたし、コミュニケーションをとって、皆さん認知症の方々を知っていただいて、いろんな状況で孤立させないことが大切だと思いました。特に徘徊の関係で言えば、早く見つけなければいけないというのが重要で、そのためには、警察としては早く知ることが大事なので、とにかく早く通報をもらいたいというところがあります。特に冬時期なんかですと、なかには凍死したりあるいは用水路に落ちてしまったりとか、そういうことも結構あります。早期の発見には、早期の事案認知が重要とありますが、この辺も結局お互いのコミュニケーションの深さや頻度が大きく関わってくると思いますので、こういった今までご紹介いただいた活動がより広がっていくことがとても大切であると思っております。以上です。

(座長)

ありがとうございます。等々力委員、いかがでしょうか。

(等々力委員)

先ほど井上さんの方から、しもまちで取り組まれた時、しもまち地域は高齢化率が高くて、お年寄りが多くて、なかなか見た目では分からないところもあると。

認知症なんですけど、足腰が元気な方がいて、私ども家族の会でもいらっしゃいましたが、ちょうどご主人が認知症の方で、その方はいつもご夫婦と一緒に出掛けているから、仲がいいと思われてたって。それから、認知症を公表して段々皆さんに伝わって、いろんな地域の助けも受けられるようになったってことなんですけど。

阿部委員からお話があったとおり、かなりお亡くなりになっている方もいらっしゃいますので、まずはこのサポーター養成講座とか、チームオレンジのような活動なんかも地域で進めていっていただい。

平成4年まで痴呆症と言われていた頃に比べ、認知症と言われるようになってからは、地域が温かく認知症の人とご家族を見守ろうとか、温かく支援しようという流れが広がってきてますので、やはり公表しないとそれが受けられない可能性がある。見た目では分からないので、それは非常にもったいないことですので。

私ども家族の会もそうですが、当たり前には公表できる社会を、それがまた行方不明の事故防止なんか、そういった支援、地域の助け合いにも繋がるんじゃないかって。公表できる社会っていうのを目指していかなきゃいけないなというのを改めて今日感じました。以上です。

(座長)

ありがとうございます。中臣委員いかがでしょうか。

(中臣委員)

井上さんの認知症の人を地域で支えるっていうのを聞かせていただいて、本当に強く共感しています。

私どもグループホームでも、地域の方との交流をもっと増やしていったりだとか深めていったりといったことを考えているんですが、なかなか前に進まない状況ではあります。本当に意欲的に活動しておられるので、私達も見習っていきたいなと改めて感じました。

あと、荒木さんが地域の方が認知症を発見するということで、私達、日々認知症の方と関わっているなかで、本当に少しずつ変わってくるというところを見逃さず、それに対して早く対処できるようにというのを改めて強く感じました。以上です。

(座長)

ありがとうございます。では、成瀬委員お願いいたします。

(成瀬委員)

最初に課長の話でもありましたけど、この会、初期集中支援チームのことも話し合わなければいけないという会になっていますけど、8月の時にお話したんですが、大分進んでないなという話があったんですけど、その後の経過をぜひ市の方からお話を聞かせていただきたいと思ひまして。

(座長)

初期集中支援チーム検討委員会の内容も兼ねるということで、いかがでしょうか。現状と今後の展望というところでお話いただければと思いますがいかがでしょうか。

(事務局：小柳)

8月の会議からなかなか進まないというところで、先日なんですけど、12月10日にチーム員の皆さんと、初期集中支援チームの活動の活性化についての情報交換会を開催しました。

現在のところ、皆さんからの意見をもらって集約中であるというところが現在の進捗状況になっております。

(座長)

ありがとうございます。

(成瀬委員)

今年度中に、チーム員と包括のところのうまく話し合いを進めるって話でしたので、ぜひ、それをやっていただきたいと思ひますけれども。

あと、荒木さんにお話聞きたいんですけど、なぜ例えば西区とか西蒲区は包括から挙がっていないかってことを、率直なご意見をお聞きしたいと思ひまして。

(座長)

荒木さん、大丈夫ですか。

(荒木委員)

正直言いまして、ご相談を申し上げる前にシートといえますか、色々な様式を書かせていただく前に病院の相談員さんともまずは相談させていただいています。その段階で、「どうなんだろう」というふうになることが実は何分の何でしょうね、私もまだちょっとそこまで意識してないですけど、正直少なくなくて。それで、実際の会議にあげるケースとなる、ならないことも幾つかあるところです。

ですので、病院さんの方で、まずのところ、まだ初期集中でなくてもよいんじゃないかという判断されることも、実はある現状というところがあります。

(成瀬委員)

チーム員の、チーム員会議の質の問題というところが大きいってことですか。

(荒木委員)

多分、まっさらなケースとして最初に取り上げる、聞いていただくというところではなくて、ある程度精査していただいたところでチーム員の会議に入っていく感じがあるので、そこが一つあるのかなっていうのは正直感じますけどね。

(成瀬委員)

そうなんです。我々もモデル事業の時からやっていて、やっぱり最初にどうしてもセレクションをかけすぎてしまって、それによって件数が全然挙がってこなかったというのがあったんですけど、最近、セレクションを全然かけずに全部受けて。で、受けてる間に包括の方もなっていますか、こういうのをやっていくといいなっていうのが分かってきて、現在うまくいっているんですね。ですから、もうちょっとその辺を深く追求していく必要があるんじゃないかなと思いますね。

あとは、私、個人的な意見としては、チームの目標がですね、その患者さん、患者さんの家族をなんとかしようというのに向きすぎていて、地域包括ケアっていいですかね、地域で見えていく観点がかなり欠けているところが多いんじゃないかなと思うんですね。

例えば、地域のかかりつけの先生と連携するとかですね、地域のケアマネさんとか連携するとか、そういうところが非常にまだ欠けているんじゃないかなと思うので、そういう課題のところをしっかりとあと半年、あと3ヶ月残っていますけど、やっていただければいいかと。この事業は2,800万くらい税金かかっているんですね。ですからやはりしっかり、やっていかないと市民に顔向けできないと私は思っていますけれども。以上です。

(座長)

ありがとうございます。いくつか課題を挙げていただきました。新潟市の問題もありますし、他の同じような自治体の事例も参考にしながら、また少しデータを出していただいて、対策とい

うか、改善策を検討する場を設けられればと思っております。よろしいでしょうか。

本日の議事はこれで終了しますので、事務局の方にお返しいたします。

(司 会)

池内座長、どうもありがとうございました。

皆様、本日は大変お疲れのところ、会議にご参加いただきありがとうございました。

本日の議事録及び会議の資料につきましては、後日新潟市ホームページに掲載させていただきます。

次回、第3回目の会議ですけれども、年度末を予定しております。近くなりましたら日程調整のため皆様にまたご連絡させていただきますので、よろしくお願ひします。

それでは、以上を持ちまして、令和3年度第2回新潟市認知症対策地域連携推進会議を終了いたします。皆様、大変お疲れ様でした。